

# 年末年始の大雪及び北朝鮮ミサイル発射事案等 への対応に係る情報連絡会議

- 1 日時 12月27日（金） 午後3時20分から
- 2 場所 第4応接室（県庁本庁舎3階）
- 3 出席者  
知事、副知事、統轄監、危機管理局、総務部  
地域づくり推進部、農林水産部、県土整備部  
鳥取地方气象台
- 4 議 題
  - （1）年末年始の気象見込みについて
  - （2）年末年始の警戒体制について
  - （3）その他

令和元年12月27日  
鳥取地方気象台

年末・年始の気象解説について  
(27日12時現在の予想による)

(全般的な特徴)

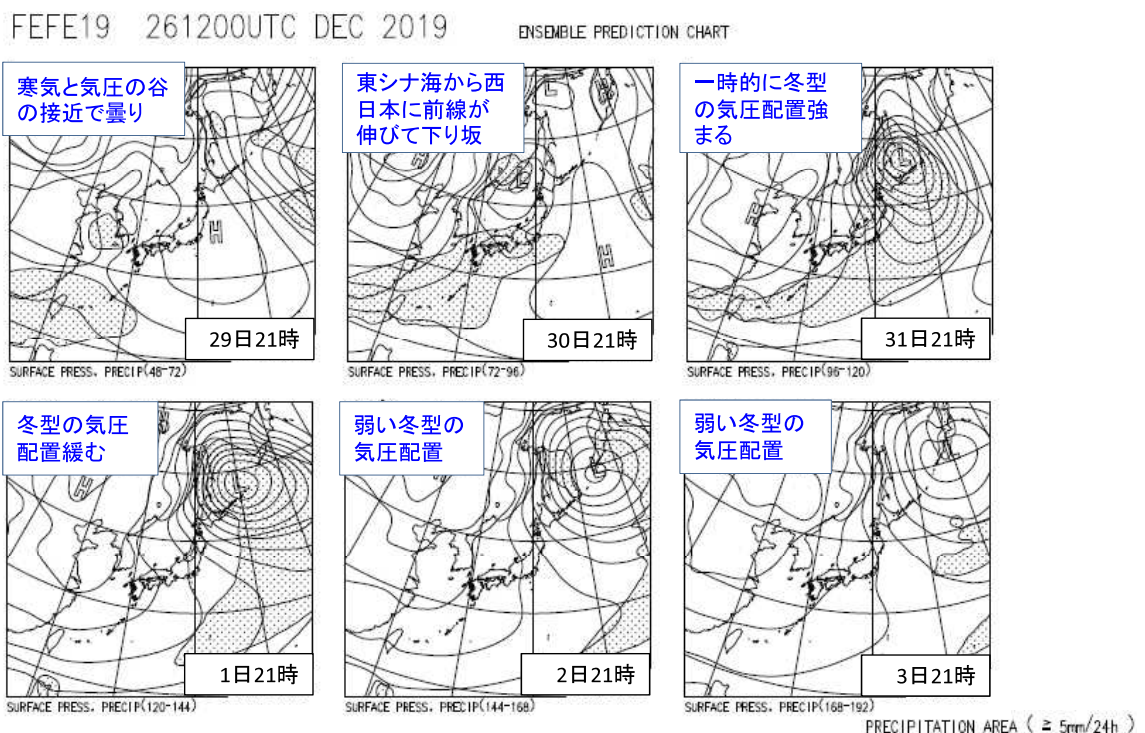
- ・北日本から西日本にかけての日本海側は、低気圧や寒気の影響で曇りや雪または雨の降る日が多い見込み。
- ・北日本では、31日頃は低気圧の影響で大荒れとなる所があり、低気圧の発達程度等によっては大しけとなる所がある見込みです。

(鳥取県への影響)

- ・気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の天気となる見込み。
- ・31日から元旦にかけて、一時的に冬型の気圧配置が強まりますが、長続きはしない見込み。
- ・大雪注意報や警報を発表する可能性は低い見込み。

今後の予想を含めた最新の情報は、気象台の発表する気象情報をご利用ください  
気象情報 [http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/339\\_index.html](http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/339_index.html)

地上予想天気図 (12/29~1/3)



向こう一週間は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の天気となるでしょう。最高気温、最低気温は共に、平年並か平年より高く、かなり高い日があるでしょう。降水量は、平年並か平年より多い見込みです。

# 週間予報と早期注意情報（警報級の可能性）（27日11時現在）

12月27日11時 鳥取県の週間天気予報

日付	28 土	29 日	30 月	31 火	1 水	2 木	3 金
鳥取県	曇	曇のち一時雨	曇一時雨	曇一時雨が雪	曇一時雨が雪	曇	曇
府県天気予報へ							
降水確率(%)	40/40/30/10	50	70	70	50	40	40
信頼度	/	/	A	B	C	B	C
鳥取	最高(°C)	9 (12 (10~14)	14 (12~15)	9 (7~13)	7 (5~10)	9 (6~12)	10 (7~12)
	最低(°C)	4 (2~5)	7 (5~8)	2 (1~4)	2 (-1~3)	3 (1~5)	3 (1~6)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
鳥取	平年並 27 - 52mm		最低気温	最高気温			
			1.8 °C	9.0 °C			

令和元年12月27日11時00分 鳥取地方気象台発表

## 鳥取県東部の早期注意情報(警報級の可能性)

東部では、28日までの期間内に [高] 及び [中] はない。今後の情報に留意。

鳥取県東部	警報級の可能性								
	27日		28日			29日	30日	31日	1日
	夕方まで	夜~明け方	朝~夜速く						
種別	12-18	18-6	6-24						
大雨	-	-	-		-	-	-	-	-
大雪	-	-	-		-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	-	-		-	-	-	-	-
波浪	-	-	-		-	-	-	-	-

[高]: 警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。

[中]: [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

※警戒レベルとの関係

早期注意情報(警報級の可能性)\*...【警戒レベル1】

## 週間予報

<https://www.jma.go.jp/jp/week/339.html>

予想される降水量や降雪量は、インターネット防災情報提供システムの「予報官コメント」でご確認ください。

# 年末年始の警戒体制について（危機管理局）

年末年始を迎えるに当たり、県の即応体制が手薄とならないよう、通常に対応体制（防災当直＋危機管理局待機班）に加え、非常参集要員を登録するなど体制強化を図る。

また、北朝鮮がミサイルを発射した場合は迅速に対応できるよう各部局及び市町村等に体制確保について依頼・徹底した。

## ①年末年始の体制強化

体制	人数	対応者	参集等の基準
防災当直	2名	防災連絡員＋危機管理局職員	・常駐
待機班	正・副 各5名	危機管理局職員	・大雪警報発表などの警戒体制（1） 以上で緊急参集 ・ミサイル発射で緊急参集（強化）
非常参集要員の 指名（強化）	2名	危機対策・情報課 （管理職＋職員）	・ミサイル発射で緊急参集（強化）

## ②庁内での情報共有

### （大雪）

○さらなる警戒を要する兆候が確認された場合は、早めに情報収集し、職員参集メールで情報共有を実施

### （ミサイル）

○ミサイル発射情報を覚知後、速やかに職員参集メールにより情報共有を実施。

○万が一、Jアラートが鳴動した場合は、自動的に防災行政無線や緊急速報メール等と連動。

## ③警戒連絡会議の開催

### （大雪）

○さらなる警戒を要する兆候が確認された場合は、早めに会議開催の必要性を判断。

### （ミサイル）

○EEZ内に落下又は発射の可能性が確実となった場合は、警戒連絡会議を開催。

※EEZ外落下の場合はこれまでどおり対応（発射情報・安否確認結果の共有、知事コメントの発出）

○緊急の会議開催に備え、各部局において年末年始の緊急参集職員を指名。

## ④県民への情報発信

### （大雪）

○さらなる警戒を要する兆候が確認された場合は、早めにホームページやあんしんトリピーメールで県民に対して注意喚起を実施。

### （ミサイル）

○ミサイル発射に係る本県への影響や対応状況等をホームページ及びあんしんトリピーメールで県民への情報発信を実施。

# 県土整備部

## 除雪体制

■平成29年1・2月の豪雪の教訓を踏まえ、平成29年度から除雪計画を見直し、出動基準の引下げによる初動の迅速化等に取り組んでいるところであり、本年度も引き続き、強化した除雪体制により県内の冬期交通の確保に努める。

### ①除雪体制

全除雪車 482台が出動可能な体制を配備（県：368台、国土交通省：93台、NEXCO：21台）

### ②早期の除雪出動（出動基準5～10cm程度）

・気象状況に応じた早めの出動を全除雪業者に指示

### ③重点除雪区間の早期交通確保

・広域的な交通と緊急車両等の交通の確保のため、除雪機械GPSシステム（県管理除雪車全台へ配備）、ライブカメラ（247台）を活用し、重点除雪区間の除雪体制を配備

### ④待機体制

・大雪注意報発令時（県土整備部、各総合事務所）  
・大雪警報発令時（県土整備部、各総合事務所）※気象状況に応じて増員  
※国、NEXCOとの連絡体制も確認済み

### ⑤凍結防止剤の散布

・凍結に備えて国道181号、180号、183号をはじめ国道482号内海峠や国道313号犬狹峠、国道179号人形峠等の県境部において重点的に凍結防止剤の散布を実施

# 県土整備部

### ⑥冬期閉鎖

・27日午後5時時点で冬期閉鎖予定区間46区間のうち年内に積雪が想定される39区間を閉鎖

### ⑦道路利用者への情報発信

・トリピーメール・HP・Yahoo!防災速報、国交省HPなどにより道路利用者に向けて情報発信

### ⑧排雪場の確保

・河川敷などに排雪場を確保し、関係機関とも情報共有

## 関係機関の連携強化

■気象台から「大雪に関する気象情報」が発表された場合は、関係機関（国、県、市町村、NEXCO、警察等）による冬期交通確保連絡会議を開催し、情報を共有し、連携強化を図る。

■鳥取県内の直轄管理道路では、大雪時には通行止めを行い、集中除雪により立ち往生車両の発生を防止する「優先除雪区間」が鳥取自動車道をはじめとして、6区間設定されていることから、集中除雪実施時の連絡体制について改めて確認を行う。

### 〔主な確認事項〕

- 連絡体制（ホットラインの活用）、行動計画（タイムライン）の確認
- 情報共有方法（情報共有項目の確認、リエゾンの相互派遣）
- 立ち往生車発生時の対応方法の確認（通行止め区間、広域迂回路など）
- スタックポイントへの対策車両の配備状況

# 県土整備部

## 米子自動車道(湯原IC～江府IC)におけるチェーン規制

昨年度、米子自動車道の湯原IC～江府IC間がチェーン規制区間に指定され、大雪特別警報等が発表されるような異例の降雪時に、従来では通行止めとなる状況においてタイヤチェーン装着車のみ通行可能とする『チェーン規制』が実施される場合がある。



# 県土整備部

## 鳥取西道路の通行止め区間

■5月の開通後初めての降雪期を迎える鳥取西道路については、集中除雪に伴い通行止めを行う場合には、住宅地等への通過交通の流入を防ぐため、鳥取IC～青谷IC間を一体的に通行止めにするを国土交通省鳥取河川国道事務所と申し合わせている。



# 県土整備部

## 鳥取道通行止め時の広域迂回の誘導

- 鳥取道を集中除雪に伴い通行止めにする場合には、山間部への通過交通の流入を防ぐため、佐用JCT～河原IC間を一体的に通行止めすることとし、広域迂回を促すチラシを道の駅や中国道のサービスエリア・パーキングエリアに配布



5

# 県土整備部

## 災害等への体制

- 大雪・暴風雪・波浪による公共土木施設災の警戒のため、即時対応できるよう体制を整備している。
- 「大雪による雪崩災害防止に関する注意喚起を関係市町村へ周知(11月22日周知済)」
- 港湾・漁港・空港の施設や駐車場の除雪について注意喚起済み。
- (一社)鳥取県建設業協会に、災害発生時には、災害時応援協定に基づいて対応していただくよう事前に確認済み。

6

# 農林水産部の対応

## 1 大雪に対する警戒体制

- 果樹、野菜、ビニールハウス等の雪害対策について、各市町村、JA、県農林局等へ対策を講じるよう連絡。(11/22、12/27)
- 農家が早期に十分な対策をとれるよう、本格的な降雪シーズン前に、市町村やJA等に周知し、以下の対策について重点的に注意喚起をしてきており、今回、再徹底を行っているところ。

### 【周知徹底した内容】

- ・果樹やビニールハウスの補強法などを示した農業技術対策(11/22、12/27)
- ・ビニールハウスの補強法の詳細や暴風雪被害のポイントを示したマニュアル(12/11)

耕種農家	<b>&lt;白ねぎ&gt;土寄せの徹底、バンド補強</b> <b>&lt;パイプハウス&gt;</b> ◇支柱の配置(モウソウ竹、間伐材、直管パイプなどをハウス内部で地面から天部に突き上げる) ◇アーチパイプ地際部の補強(経年劣化で腐食が進んでいる場合は、補強用のパイプを差し込む) ◇降雪前にハウスを密閉(内部の温度を高く設定し、融雪を促すため)
畜産農家	各JA畜産課、大山乳業、各家畜保健衛生所等を通じて、生産者への注意喚起を依頼。

- 農地・ため池関係、林業関係、水産関係についても、市町村や関係団体へ降雪期の安全管理の徹底等について依頼。

## 2 北朝鮮ミサイル発射時の即応体制

- ミサイル発射時の緊急参集職員を確認済(水産課)

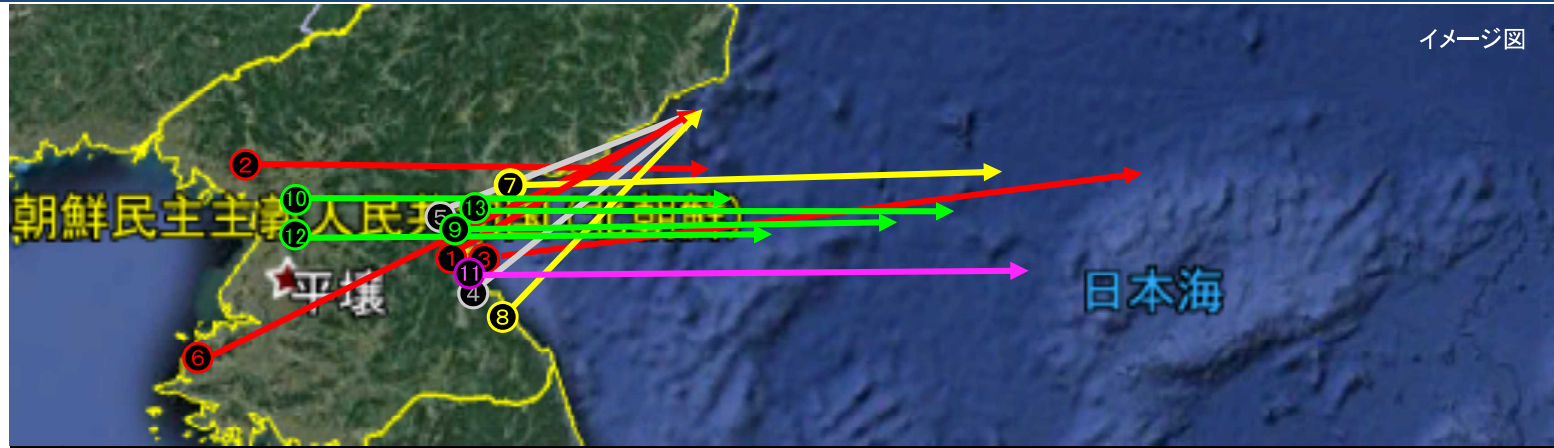
- 県関係漁船の緊急連絡先及び年末年始の休み等を確認済

【主な漁船】・中型いか釣り漁業：2漁船 ⇒ 正月休みを予定。

・べにずわい漁業：3漁船 ⇒ 12/25～1/2休み。1/3朝9時出港 等。

1





月日	①5月4日	②5月9日	③7月25日	④7月31日	⑤8月2日	⑥8月6日	⑦8月10日	⑧8月16日	⑨8月24日	⑩9月10日	⑪10月2日	⑫10月31日	⑬11月28日
時刻	0830、1050頃	1630、1650頃	0530、0600頃	0510、0530頃	0300、0320頃	0520、0540頃	0530、0550頃	0800、0820頃	0640、0700頃	0650、0710頃	0710頃	1635前後(約3分間隔)	1658頃
場所	ホド 虎島半島	クソ 亀城付近	ホド 虎島半島	ウォンサン 元山付近	ヨンフン 永興付近	クァイル 付近	ハムフン 咸興付近	トンチョン 通川付近	ソドク 宣徳付近	ケチョン 价川付近	ウォンサン 元山付近	スンチョン 順川付近	ヨンポ 連浦付近
距離	最大250km程度	400km程度 250km程度	600km程度	250km程度	250km程度	450km程度	400km程度	250km程度	350km～ 400km程度	最大300～ 350km程度	450km程度	350km～ 400km程度	380km程度
弾種	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイルの可能性	短距離弾道ミサイルの可能性	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	潜水艦発射弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル	短距離弾道ミサイル
発数	2発	2発	2発	2発	2発	2発	2発	2発	2発	2発	1発	2発	2発
写真													

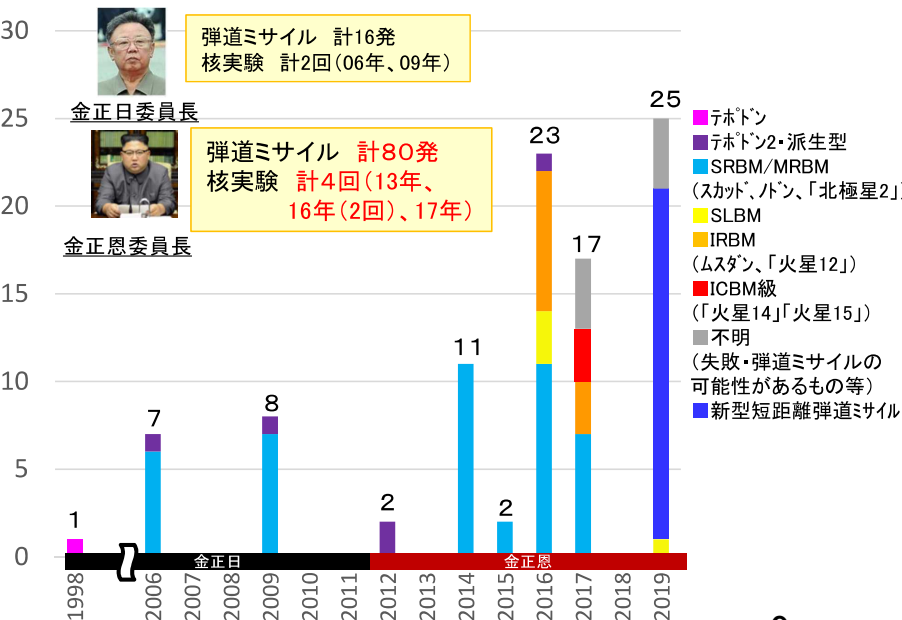
※ 分析中のものを含む。  
 ※ 飛行高度については、8月24日、10月31日及び11月28日に発射されたものは100km程度、9月10日に発射されたものは分析中、10月2日に発射されたものは最大900km程度、それ以外は、従来から北朝鮮が保有しているスカッドの軌道よりも低い高度(100km未満)と推定。

防衛省資料

## 北朝鮮による弾道ミサイル技術と攻撃能力の向上

- **長射程化**: テポドン2・派生型(06年～)、ICBM級弾道ミサイル等(17年～) 射程が10,000kmを超えるものも。
- **飽和攻撃のために必要な正確性・運用能力の向上**: 過去に例のない地点から、早朝・深夜にTELを用いて複数発発射するなどを繰り返す(14年～)。一部の弾道ミサイルには、終末誘導機動弾頭を装備しているとの指摘も(17年～)。
- **発射形態の多様化**: ロフトド軌道と推定される発射が確認(16年～)。
- **秘匿性・即時性の向上、奇襲的攻撃能力の向上**: SLBMの発射(16年～)。弾道ミサイルの固体燃料化推進の可能性(16年～)。
- **変則的な軌道**: 最近の新型と推定される短距離弾道ミサイルには、通常よりも低高度で変則的な軌道で飛行可能ともいわれるイスカンデルとの外形上類似点も(19年～)。

北朝鮮による弾道ミサイル発射数・核実験回数



長射程化

ICBM級「火星15」型 (17年11月)

同時発射

スカッドER (17年3月)

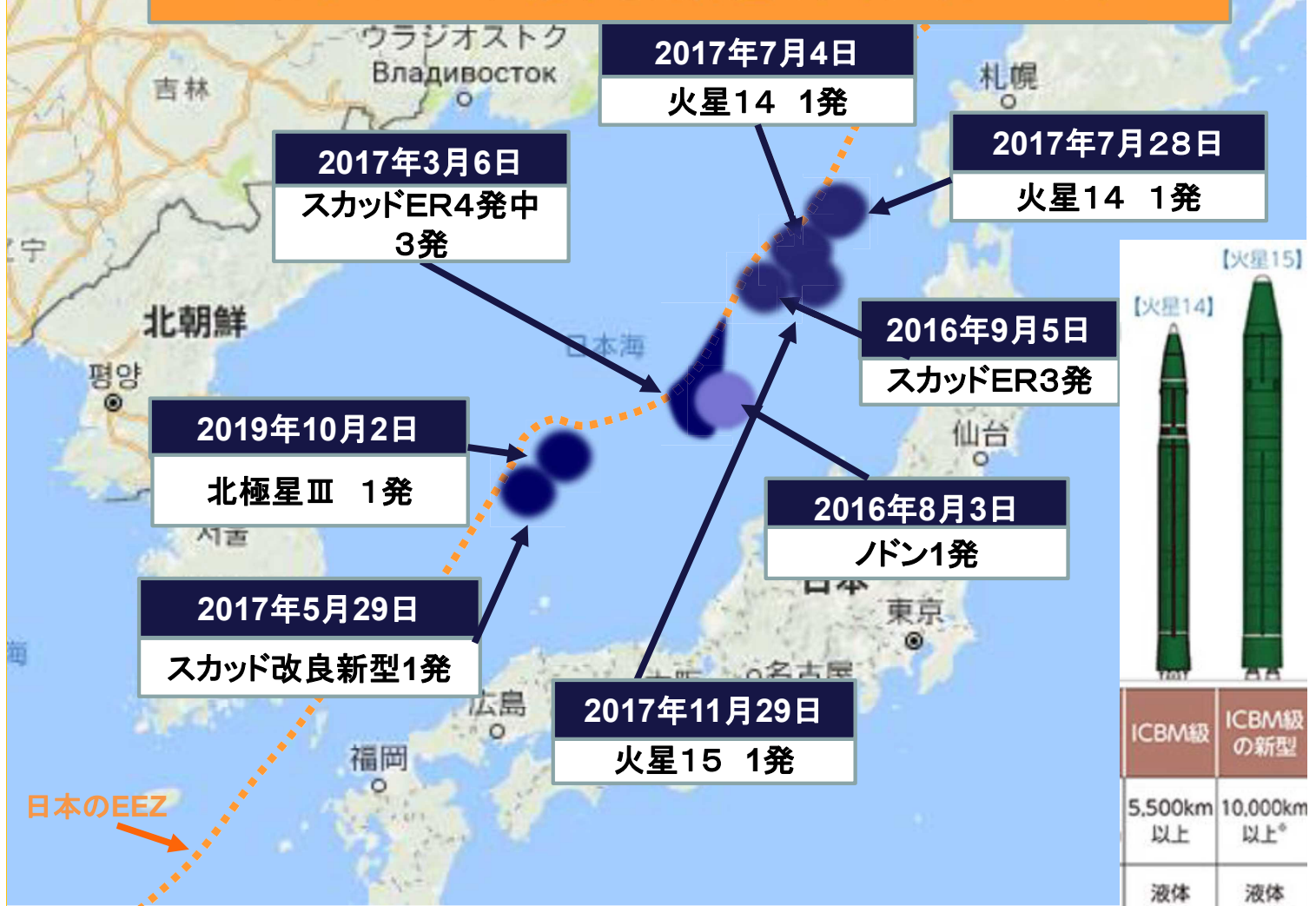
秘匿性・即時性向上

SLBM「北極星1」 (16年4月)

変則的な軌道

新型短距離弾道ミサイル (19年5、7、8月)

# 日本のEEZに落下した弾道ミサイル(イメージ)



# 日本越えした弾道ミサイル(イメージ)

